

明るく生き生きとした子どもを育てます！

6月は、幼小合同運動会に第33回さつき祭り、そして中西別神社大例祭「ふるさと祭り」と学校・地域行事が目白押しでした。とりわけ、3日に開催した合同運動会には肌寒い中、プログラムを短縮して開催したにも関わらず、多くの方々にご来場頂き、ご声援をいただいたことに感謝申し上げます。

さて、先日行われたふるさと祭りの歴史を紐解きますと、移住民の入地により中西別地区に6カ所建設された神社でしたが、時代の推移により、昭和49年に合祀されて中西別神社となりました。（記念誌「中西別半世紀」より抜粋）



それ以来、毎年6月15日に祭典行事が行われ、今年も盛大に祭典が行われました。私は初めて祭典に参加させていただきましたが、宵宮の趣向を凝らした余興や子ども育成会による子どもゲーム大会、本祭の神輿パレードに境内で行われた子ども相撲など、地域の方々や子ども達がステージやパレードで生き生きと自分を表現されている姿に感動しました。また、草原太鼓は開基50周年記念事業の一環として設立され、今年も力強い演奏で観客は釘付けでした。人々が明るく生き生きと暮らす街～中西別～そのパワーを感じた水無月でした。

これからも地域の方々ที่明るく生き生きと暮らしていくためには、学校も明るく生き生きと暮らせる場所となり、そこで学ぶ子ども達が元気に挨拶したり、はきはきとした応答ができたりするなど、場に応じた言動ができるよう指導していかなければならないと決意しました。

前回の学校だよりでも紹介しましたが、本校では1学期の目標として「しっかりとした挨拶」に取り組んでいます。6月に入ってイベント委員会では子どものアイデアで校内にポスターを貼って元気な声で挨拶するよう呼び掛けています。また、高学年の女子を中心に朝から大きな声で挨拶する子どもが増えています。校内に響きわたる子ども達の声を聞いていますと、「明るく生き生きした学校だなあ」と嬉しくなります。



しかし、これで安心してはいけません。6月に本校で行った「いじめの把握のためのアンケート調査」の結果では、**4月からいじめられたことがある**と回答した子が1名いました。（現在、いじめは解消しています）この結果を我々は真摯に受け止め、どの子も安心・安全に暮らせる学校を作らなければなりません。さらに、由々しき事態は**相談相手がいない（3名）**・**いじめはどんなことがあっても許されないと**思わない（4名）という2つの数字です。

まず、相談相手ですが、回答の多い順に①父母②先生③友達④兄弟・姉妹⑤電話相談となっています。どんな些細なことでも本人にとっては大きな問題であり、毎日の生活において気掛かりでなりません。私たちは、子どものサインを見逃さず、状況に応じた支援や指導をしなければなりません。

続いて、「いじめは許される」と思っている子がいるということです。『いじめは、決して許されないことであり、また、どの子どもにも、どの学校でも起こり得るものでもある。』ことをもう一度、教職員で確認し、本学校区から子どもが自らその命を絶つという痛ましい事件が起きないように、学校教育に携わるすべての関係者一人一人が、改めてこの数字のもつ意味を認識し、いじめの兆候をいち早く把握して、迅速に対応する必要があると考えています。右図に示した本校の「いじめ対策の基本方針」を再確認し、取り組んでいきます。

いじめ対策の基本方針

【目的】

- 1 いじめは人権を侵害する行為であることを児童に認識させ、他者を思いやる気持ちを育てる
- 2 全ての児童がいじめの不安や苦痛に悩まされることなく、安全かつ安心して学校生活を営むことができるよう、いじめの防止や解消に組織的に取り組む

【基本方針】

- 1 「いじめは人間として絶対に許されない」という強い認識をもつ
- 2 「いじめは、どの学校でも、どの子にも起こりうる」という危機意識をもつ
- 3 「いじめられている子を最後まで守り抜く」という信念をもつ